
機能水ニュースレター No. 118

2024年3月4日発行 一般財団法人機能水研究振興財団 編集担当 堀田国元・中藤誉子・清水雅俊

協力: 日本機能水学会・(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: kinousui-zaidan@fwf.or.jp ホームページ: <http://www.fwf.or.jp>

お知らせ: 第89回ウォーター研究会セミナー	1
迅速検査研究会第49回定例講演会	2
ifia JAPAN 2024	2
第25回日本口腔機能水学会総会・学術大会	3
生物安全実践講習会: 24年度実施予定	4

機能水関連カレンダー

迅速検査研究会第49回定例講演会	2024年2月3日(火)	月島社会教育会館(東京)
日本口腔機能水学会学術大会	2024年3月9・10日(土・日)	同志社大学今出川キャンパス(京都)
第89回ウォーター研究会	2024年3月18日(月)	日本感染症医薬品協会(東京)
ifia JAPAN 2024	2024年5月22-24日(水-金)	東京ビッグサイト

<お知らせ> 第89回ウォーター研究会セミナー

日時: 2024年3月18日(月)13:30~16:30 (開場 13:00~)
会場: (公財)日本感染症医薬品協会ビル(機能水財団入居)4F 会議室
東京都品川区上大崎 2-20-8 JR 目黒駅西口より徒歩約5分
形式: ハイブリッド(参加定員: 来場 20名、WEB100名)
参加費: 事前登録制 会員 2千円、非会員 5千円。入金締切 3月15日(金)
申込み: <http://www.fwf.or.jp> の申込み案内から。締切 3月8日(金)

<プログラム>

- 13:30~14:10 機能水をめぐる動向 2023
堀田 国元 (一財)機能水研究振興財団 理事長
- 14:10~14:50 アルカリ水電解槽における気泡生成の瞬間の高速度顕微観察と物質移動の等価回路モデル解析
三角 隆太 横浜国立大学大学院工学研究院 准教授
- 14:50~15:00 休憩
- 15:00~15:40 生活水廻り機器で活躍する水道電解水
佐藤 基和 TOTO(株) 技術本部技術統括部技術推進室 室長
- 15:40~16:20 機能水とともに30年 ~裏方微生物屋から見た機能水とその評価~
土崎 尚史 日本微生物クリニック(株) 代表取締役社長

問合せ先: 日本機能水学会 kinousui-gakkai@fwf.or.jp 電話 03-3495-0251 担当: 中藤誉子

迅速検査研究会：第49回定例講演会 (<https://jinsokukensa.com/kouen.html>)

日時・会場： 2024年3月5日(火)12:30~17:20・月島社会教育会館(東京都中央区月島 4-1-1、月島区民センター)

参加費： 賛助会員企業・法人会員企業、機能水研究振興財団会員企業 1,000円

<プログラム>

13:00~13:50 【基調講演】HACCP 制度化で重要な食品安全ハザード~主要な食中毒菌の基礎知識と検査法の変遷~
迅速検査研究会副会長 森 哲也(一財)東京顕微鏡院食と環境の科学センター微生物検査部)

13:50~14:40 【特別講演】寄生虫による食中毒の予防対策と検査の考え方
国立医薬品食品衛生研究所衛生微生物部第2室室長 大西 貴弘 先生

14:40~14:55 【迅速検査研究会 賛助会員プレゼンテーション】エア・ブラウン株式会社

15:15~16:05 【講演】食品安全マネジメントシステム(FSMS)における食品機械の衛生設計の考え方
(一社)日本食品機械工業会事業部 大村 宏之 先生

16:05~16:55 【講演】微生物検査・アレルゲン検査の信頼性確保に向けて~標準物質の開発と精度管理の取り組み
日本ハム株式会社 中央研究所 品質科学センター 荒川 史博 先生

問合せ先： 迅速検査研究会(旧称:ATP・迅速検査研究会)事務担当 立石、本間

ifia JAPAN 2024

期日・会場 2024年5月22~24日・東京ビッグサイト南1~4棟

展示ブース A303: (一財)機能水研究振興財団・(一社)日本電解水協会

講演セッション: 食の安全・科学セッション テーマ: 次亜塩素酸水の新展望

12:30~13:00 基調講演 次亜塩素酸水の正しい知識と近未来: 堀田国元(機能水研究振興財団 理事長)

13:00~13:30 講演1 次亜塩素酸水の新たな価値の創造と今後の課題: 石渡幸則(日本電解水協会 会長)

13:30~14:00 講演2 次亜塩素酸水による食物アレルゲン除去効果: 高見澤一裕(愛知文教女子短期大学特任教授)

14:00~14:30 講演3 HACCP 制度化の現状と電解水の活用と効果: 金盛幹昌(日本電解水協会・日本食品衛生協会 HACCP 普及指導員)

生物安全実践講習会：第1回実践コースA講習会

2024年1月20日(午後)・21日(終日)、岩手県歯科医師会(佐藤保会長、浅沼浩事務局長)の協力・支援を受けて岩手県歯科医師会館(8020 プラザ)で開催され、病原体の性状、取扱いおよび管理のために必要な先進的知識と技術に関する座学と実習が1日半に亘って行われた。

歯科医師会13支部の方々を受講生として参加され、3名のオブザーバーを含めて30名が受講した。座学、実習ともに受講生から非常に高い評価が寄せられた。



岩手日報 令和6年1月24日

第 25 回日本口腔機能水学会総会・学術大会

メインテーマ:「健口長寿を多角的視野で科学する」 サブテーマ:「機能水で医科歯科連携」

大会長: 川上智史 先生(桐生大学医療保健学部人体構造機能学 准教授)

期日・会場: 令和 6 年 3 月 9～10 日(土日)・同志社大学今出川キャンパス(京都市上京区;地下鉄烏丸線今出川駅近く)

主催・後援: 日本口腔機能水学会・一般財団法人機能水研究振興財団

参加申込: 会員 事前(3 月 5 日入金迄)6,000 円 当日 7,000 円、非会員 10,000 円

学会 HP: <http://www.kinousui.com/meeting/recent.html>

<プログラム>

第一日: 3 月 9 日(土)

- 13:30-13:40 開会挨拶 大会長挨拶 川上 智史(桐生大学医療保健学部栄養学科人体構造機能学准教授)
- 13:40-14:25 教育講演 堀田国元 先生(一財 機能水研究振興財団) 座長 塚崎弘明 先生
「機能水活用の新しい基盤と展望～次亜塩素酸水を中心に～」
- 15:00-15:45 特別講演 I 高木弘隆 先生(国立感染症研究所安全実験管理部) 座長 川上智史 先生
「Post コロナアウトブレイクにおける感染症の変動: 人流による感染免疫の成立ちと瓦解」
- 15:50-16:05 一般講演 I 寺山 隼人先生 座長 西田哲也 先生
「アルカリ性電解水の培養筋芽細胞における効果」
- 16:05-16:20 一般講演 II 稲葉大輔 先生 座長 西田哲也 先生
「QLFTM による高純度次亜塩素酸水の口腔保健効果評価モデルの検討」
- 17:00-17:45 特別講演 II 野村紘史 先生(日本臨床培養上清研究会) 座長 浅野正岳 先生
「幹細胞のセクレトームを利用した治療の現状と課題」
- 18:00-19:30 懇親会: ※昨今の状況を踏まえ、懇親会は開催されない場合があります。

第二日: 3 月 10 日(日)

- 9:30-9:40 開会式 大会長挨拶 川上 智史(桐生大学医療保健学部栄養学科人体構造機能学 准教授)
来賓挨拶 堀田 国元 先生(一財 機能水研究振興財団)
- 9:45-10:00 一般講演 III 杉澤 満 先生 座長 井上一彦 先生
「オゾンウルトラファインバブル水の鼻腔上皮細胞への経時的な影響評価」
- 10:00-10:15 一般講演 IV 渥美克幸 先生 座長 井上一彦 先生
「当院における歯科用ユニット給水系の微生物汚染対策について」
- 11:00-11:45 教育講演 II 上古真里 先生 座長 岩本 宏 先生
「健康に歳を重ねるために～機能水の有用性についての考察～」
- 11:50-13:30 昼休み(13 時まで)・総会
- 13:30-14:15 特別講演 III 田中 善 先生(腸内フローラ移植臨床研究会) 座長 佐藤 勉 先生
「特殊菌液(NanoGAS®)を使用した腸内フローラ移植の有用性」
- 14:20-14:50 企業ブリーフィング
- 15:15-16:00 特別講演 IV 吉川敏一 先生(公財 ルイ・パストゥール医学研究センター) 座長 井上一彦 先生
「機能水が口腔内医療を変える」
- 16:05-16:50 特別講演 V 福沢嘉孝 先生(愛知医科大学) 座長 川上智史 先生
「戦略的未病予防と医科歯科連携」
- 16:55-17:00 次回大会長挨拶

生物安全実践講習会：2024年度実施予定

現在、以下の3つのコースを実施し、法令を含めて、病原体の性状、取扱いおよび管理のために必要な先進的知識と技術に関する座学と実習を行っています。

1. 基盤コース：病原体基盤知識必要者（医療機器、衛生器材、機器・実験室メンテナンス、建築関係などの従事者）
2. 実践コースA：病原体接触者（歯科施設、食品施設、介護施設、関係行政機関などの従事者）
3. 実践コースB：病原体取扱者（病原体取扱実験施設、医療関係施設、大学などの従事者）

2024年度は以下のように4回の実施を予定しています。なお今後、年4回の開催を定例化する予定です。

5月 基盤コース（関東）、8月 実践コースB（関東）、10月 実践コースA（関西）、2月 実践コースB（関西）

詳細は、講習会ホームページをご覧ください。

<https://biosafetyforum.wixsite.com/seibutuanzen>



講習会受講のメリット

生物安全実践講習会を受講することで、病原体の性状、感染様式、取扱い・制御等に関する法令、適切な知識と技術の習得が可能です。その結果として、安全な仕事環境の確保、法令順守の重要性の理解、病原体取扱い・接触者の能力（知識とスキル）向上、組織の信頼性向上などにつながります。さらに、生物安全技能士資格を取得することによって、職場における衛生管理の責任者・リーダーとしての役割を担うことができるようになり、かつ講習会事務局より信頼できる最新情報を定期的に受けることができます。



生物安全実践講習会の趣旨

私たちはウイルスや細菌などの病原性微生物と共存して生活をしているため、各種の感染症の流行などの脅威に曝されています。感染症の発生・流行は、病原体、感染経路、および宿主（ヒト）の感受性の3条件が揃って起きます。感染を回避、制御、克服するために国は、公衆衛生指導やワクチン・抗生物質の開発・導入、HACCPに沿った衛生管理を推進しています。また、今後の大問題化が予想されている薬剤耐性菌対策のために、ヒト・動物・食品・環境を総合的に関連付けた監視・制御を目的とするワンヘルス（One Health）の導入などの新しい政策を打ち出し・推進しています。さらに、コロナ禍を教訓として、感染症対策のための組織改正を進めています。

しかしながら、上記のことを踏まえて、感染制御に関連する確実な最新知識と技術を体系的に学ぶことができる教育の場が極めて限られています。そこで、（公財）ルイ・パストゥール医学研究センターと（一財）機能水研究振興財団では、（一財）北里環境科学センターと連携して、国立感染症研究所など公的研究機関出身の感染症専門家の協力・指導ならびに協賛関係企業の賛同を得て、感染症対策の教育の場として共同公益事業「生物安全実践講習会」を企画実施しています。受講生の評価も高く、これまでに100名を超える「生物安全技能士」が誕生しています。